医療連携ニュース

Medical Liaison News

発行日：2026年1月5日　No.43

発　行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

新年のご挨拶

総長　倉智 博久

皆さま、あけましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2026年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

地域の医療施設の皆さまには、多くの患者さんをご紹介いただき、また、在宅医療や移行期医療などに協力していただくなど、当センターの運営に多大なご支援をありがとうございます。私たちは、高度先進医療に取り組むとともに、救急を含む周産期・小児医療分野で幅広い地域のニーズにお応えすることが極めて重要な責務であると考えております。引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

本年度からは、当センターは地域医療支援病院に加わることとなりました。今まで以上に地域に対する支援・協力が求められます。地域の医療施設のご協力もいただきながら、一層の地域医療への貢献に積極的に取り組んでまいります。ご支援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

一昨年度から「医師の働き方改革」が始まっています。地域貢献のための兼業を含めて無理なく規制に則った勤務ができるかはまだまだ注視していかなければなりません。基準を外れた勤務は許されませんが、一方で、今まで通り質の高い診療・研究・教育を継続していく必要もあります。地域の医療施設の皆さまのご理解を得ながら、働き方改革を進めていきたいと思います。

本年も当センターの大きな課題は病院の建替えです。建替え工事に向けた最終段階に入るべく準備を進めていましたが、一昨年末に入札不調となりました。ここ数年は、病院建設については、物価上昇による建築コストの著しい増嵩や建築現場の人員確保の困難さのために、入札不調となるケースが増えています。ここ2年程は更に顕著となり、当センターと同規模の病院については、私たちの調査では全て入札不調若しくは延期となっています。当センターの建替えには大きなハードルが残っていますが、何とか一つ一つ課題を乗り越えて新センターの完成を目指していきたいと考えています。

いくつかの困難がある状況下ではありますが、建替えを粛々と進めるとともに、地域医療における責務を全うしてまいります。本年も、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

基　本　理　念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

水素呼気試験が実施できます

水素呼気試験(Hydrogen Breath Test:HBT)は、小腸内細菌異常増殖症(Small Intestinal Bacterial Overgrowth:SIBO)や乳糖・果糖の吸収不良を評価することができる、安全性の高い非侵襲的検査です。消化器・内分泌科では検査機器を導入し、自施設内で測定・解析が可能な体制を整えました。

HBTは、糖質を含む検査液を服用し、15分ごとに呼気を採取して水素・メタン濃度の変化を評価するもので、従来の採血や内視鏡に比べて負担が極めて少ないことが特徴です。小腸で吸収されなかった糖質が腸内細菌により分解される際に生じる水素を指標とし、呼気中の水素濃度を測定することで吸収不良やSIBOを鋭敏に検出できます。特に小児領域においては、乳糖不耐症、SIBO、慢性腹痛や慢性下痢などの機能性消化管障害の診断に有用で、幼児から学童まで幅広く安全に実施が可能です。呼気採取のみで行えるため身体的・心理的負担が小さく、症状が不明瞭なケースでも診断の一助となります。

小児において、日本国内では当科のみが水素呼気試験を自施設で実施することができます。外部機関に依頼することなく院内で完結できるため、迅速な診療や患者への一貫したケアが可能となります。貴院の患者様で、消化器症状の鑑別や治療方針決定でお困りの際は、ぜひ当院の水素呼気試験をご活用ください。

(消化器・内分泌科　佐浦 龍太郎)

睡眠時ポリソムノグラフィー

小児の睡眠時無呼吸症候群(OSA)は発症頻度が1～6%と、決して稀な疾患ではありません。近年、放置することによる成長・発達や学習への悪影響が明らかになってきていますが、現在もなお見逃されているお子さんは少なくありません。原因の多くはアデノイド・扁桃肥大による閉塞性無呼吸ですが、背景疾患を有する場合などでは原因が複合的となり、専門的な評価と対応が必要な症例も散見されます。

診断のゴールドスタンダードは睡眠ポリグラフ検査(PSG)ですが、小児で実施可能な施設は限られています。当センター呼吸器・アレルギー科では、小児にも負担の少ない小型機器を用いて、1泊2日の検査入院を行っています。結果の説明は2～4週間後となりますが、外科的治療が必要と判断される場合には、耳鼻咽喉科と連携しながら治療に取り組んでいます。さらに、点鼻ステロイド、ロイコトリエン受容体拮抗薬、CPAP／NPPVなど、病態に応じた多角的な治療を行っています。

適切な評価と治療介入により生活の質が大きく改善する症例は少なくありません。OSAに限らず、原因不明の呼吸障害の評価も得意としておりますので、ぜひ当センターへご紹介ください。

(呼吸器・アレルギー科　主任部長　錦戸 知喜)

移行期医療支援センター活動報告

大阪府移行期医療支援センターでは、懇話会を定期的に開催しています。

懇話会の目的は、自律・自立支援を普及し、患者さんが成人期に必要な医療を切れ目なく受けられるようにすること、そして地域でその人らしく生活できる環境を整えることです。

対面形式で20～30名が参加し、医療・福祉・保健・教育など多職種の関係者が議論を行っています。

先天性心疾患では、大阪府内科医会の協力を得てアンケートを実施し、かかりつけ医のリスト作成を進めています。

重症心身障がいでは、緊急入院等の課題を共有し、小児診療科・成人診療科、小児科医会・内科医会・医師会・訪問看護ステーション協会などの立場から、地域で支える仕組みづくりを検討しています。

看護分野では、自律・自立支援のチェックリスト作成を目指すなど、各年1回の懇話会で議論を深めています。

https://ikoukishien.com

（大阪府移行期医療支援センター長　位田 忍）

医療的ケア児支援センター活動報告

大阪府医療的ケア児支援センターが開設して早いもので3年目です。

窓口相談は設置後2年間で、のべ834名の方からいただき、累積調整回数も5568回にのぼりました。2名だったセンタースタッフも5名に増員され、念願のホームページもアップできました。

また、今年も特別支援学校（大阪府立藤井寺支援学校、大阪府立東住吉支援学校）と一緒に、防災について考える防災フェスを開催し、多くの方にご参加いただいております。

そして今年1番のニュースは、地域で医療的ケア児等コーディネーターを支援する念願の支援拠点が2圏域（北河内、南河内）に設置されたことです！

これからも地域での支援の輪が確実なものになるよう、皆さまと歩んでいきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

https://osaka-iryocareji.com

（大阪府医療的ケア児支援センター長　望月 成隆）

アレルギー疾患療養指導士（CAI）が活躍しています

当センターには、アレルギー疾患療養指導士（CAI）の資格を持つ看護師3名が在籍し、アレルギー治療と管理のサポートをしています。

2024年9月から、週に1回、CAIが主体となって食物経口負荷試験を実施し、医師のタスクシフトにも協力しています。これまでに56名の方を担当しました。アレルギー症状が出現した場合には、医師と協働し、迅速に対応しています。

また、アレルギー予防のための生活指導に加え、経口免疫療法、緊急時対応の方法、薬剤管理（エピペン®の使用方法、吸入指導、軟膏指導）など、患者さんご家族の話を丁寧に伺いながら、個々のニーズに応じた指導ができるよう努めています。

和泉まちの保健室

「和泉まちの保健室」は、地域住民が気軽に健康相談できる場として、和泉市立総合医療センターと連携し、和泉市全体の健康水準の向上を目指して運営しています。

毎月第3木曜日には、和泉市役所で看護師が相談員として対応しています。

今後も多様なニーズに応え、市民の健康や医療に関する不安を解消することで、誰もが安心して暮らせるまちづくりに貢献してまいります。

開催しました

10/4 小児造血幹細胞移植看護研修

毎年、Web開催している小児造血幹細胞移植看護研修に、今年は32名の方に参加いただきました。

今年のトピックスとして、心理士から「造血幹細胞移植を受ける子どもへの関わり」、HCTC(造血細胞移植コーディネーター)から「HCTCの活動」として、子どもに造血幹細胞移植の説明をする際に使用する患者用ブックの紹介があり、ドナーとなるきょうだいも含めた子どもにどのように関わるかということを学ぶ機会となる研修でした。

11/25 地域連携懇話会
「聞きたい!伝えたい!信頼でつながる薬薬連携」

“顔の見える連携”をキーワードに、地域の保険薬局との懇話会を開催しました。院内薬局と院外の保険薬局の双方から、各施設の取組みを紹介するだけでなく、普段から抱えている疑問や問題点についても率直に語っていただきました。

今回は初めての試みでしたが、お互いの顔を見ながらのコミュニケーションによって相互理解が深まり、更なる連携を目指す良い機会となりました。この会でいただいた意見を業務改善に繋げるとともに、今後も定期的な開催を継続していきたいと思います。

11/9 ベルランド総合病院・当センター合同 母乳育児ワークショップ

今後も毎年開催予定
ご興味のある方はぜひご参加ください

『いま、この時代における母乳育児について考えよう～変えてはいけないこと変えるべきこと～』をメインテーマとした母乳育児ワークショップを合同開催し、参加者は計52名(医師6名、助産師33名、看護師10名、薬剤師1名、栄養管理士1名、事務1名)でした。

この10年の著しい母乳育児率の低下を食い止めるためには、SNSの普及やご両親の働き方の変化など、社会の変化にあわせ、我々の母乳育児支援の在り方を変える必要があることを皆で熱く議論しました。

交

診療時間：平日9時～17時30分
予約受付時間：平日9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター　患者支援センター
〒594-1101　大阪府和泉市室堂町840
【初診専用】　TEL：0725-56-9890（直通）
FAX：0725-56-5605
【そ の 他】　TEL：0725-55-3113（直通）
FAX：0725-56-7785
【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン
0725-56-1070

小児がん・白血病ホットライン
0725-57-7677

心疾患ホットライン
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。